

The Impact of Healthcare Expenditures on Longevity in Japan:
Evidence from Longitudinal, Prefectural-Level Data

Shinya Kajitani*
Shuzo Nishimura †
Keisuke Tokunaga ‡

要旨

健康や医療に関する指標は都道府県間で異なる。そのうち、医療費に注目すると、1人あたりの支出額は都道府県で大きな差が存在する。この都道府県間の医療費支出の差は都道府県間の健康格差にどのような影響を及ぼしているのだろうか。本稿では、1975年から2005年までの都道府県別データを用いて、1人あたり医療費が平均余命という健康度を表す指標に与える影響について、操作変数法を用いたパネル分析で数量的に確認する。医療内容や費用が異なることを考慮するために、入院と入院外とを区別した分析を行う。さらに健康に関連する指標として、寿命だけでなく65歳時点の余命、健康寿命なども考察の対象とする。分析の結果、1人あたり入院医療費の増加は0歳時平均余命（平均寿命）を伸ばすことを統計的に確認する。ただし、男性高齢者に限定した分析では、入院医療費の増加が65歳時平均余命を伸ばすということは統計的に確認されない一方で、入院外医療費の増加が65歳時平均余命の伸長をもたらすことを統計的に確認する。

* Faculty of Economics, Meisei University, 2-1-1, Hodokubo, Hino-shi, Tokyo, 191-8506 (kajitani@econ.meisei-u.ac.jp).

† Graduate School of Economics, Kyoto University.

‡ Former graduate student, Graduate School of Economics, Kyoto University.